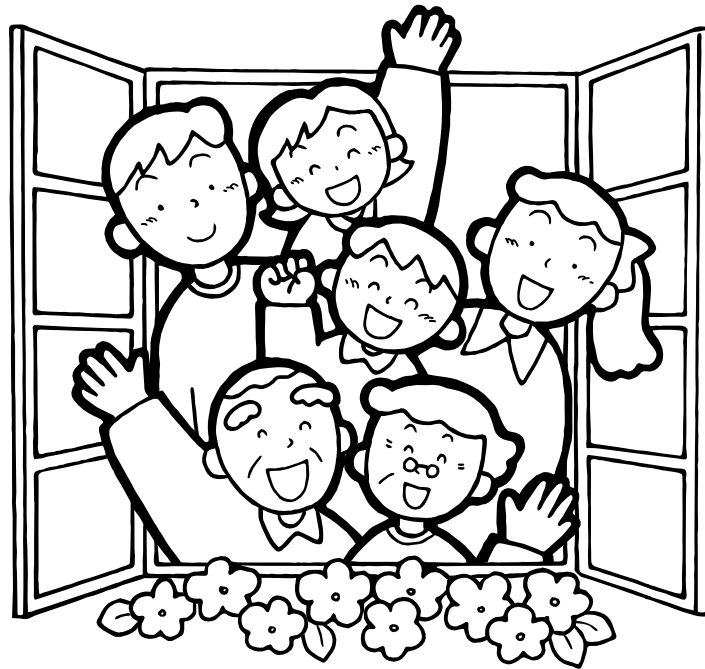


政策企画書

県人口 70 万人台時代の地域活力創造



～ふくいを支えるアクティブシニア～

平成 24 年 10 月

チーム アクティブ Jr.

鈴木 勝之 (公営企業経営課)
前田 和宏 (危機対策・防災課)
池田 輝彦 (環境政策課)
市川 宏枝 (福井健康福祉センター)

目 次

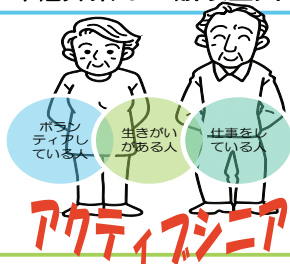
要 約	P. 1
はじめに	P. 2
1 福井県の「団塊の世代」をとりまく現状	P. 3
(1) 福井県における人口構成	
(2) 平均寿命と健康寿命の状況	
2 福井県の課題	P. 6
(1) 就業の状況	
(2) ボランティアの状況	
(3) 老人クラブの状況	
3 課題解決の方向性	P. 8
(1) 高齢者の就労とボランティアのニーズに関するアンケート調査	
(2) 聞き取り調査	
4 施策の提言	P. 16
I 就業施策	
II ボランティア施策	
III 生きがいづくり施策	
IV 提言する政策全体の進め方	
5 提案する政策による目標	P. 19
6 おわりに	P. 20

団塊世代はアクティブシニアがあたりまえ！

ふくいを支えるアクティブシニア

現在のふくいの姿

◆H22年福井県の65歳以上人口 **25.2%**

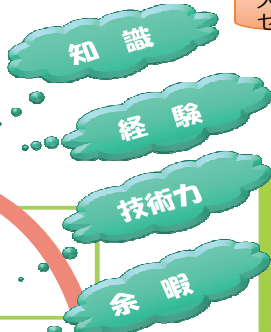


アクティブシニア

福井県の65歳以上
◆ボランティア活動率：26.5%(H23)
◆就業率：21.9%(H22)

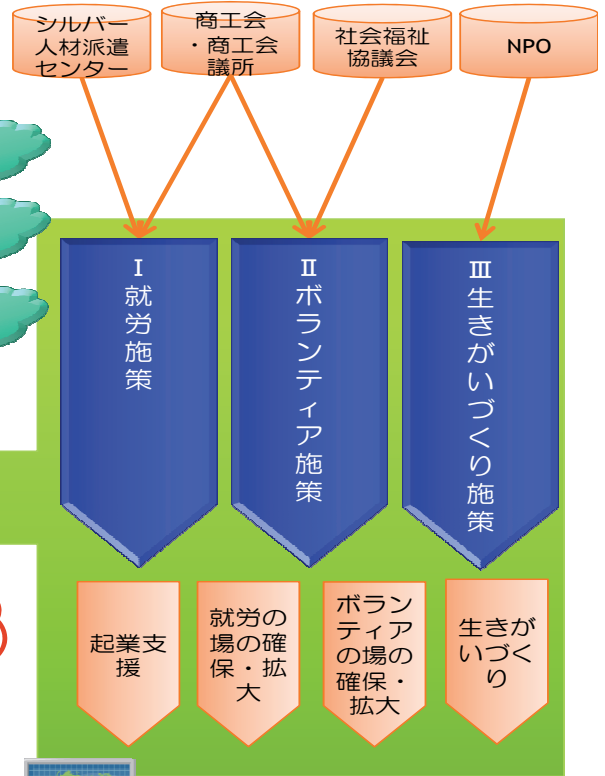


潜在層



潜在層から
アクティブシニアに!

アクティブシニア施策



8年後のふくいの姿

◆H32年の福井県の65歳以上人口 **30.5%**



アクティブシニアが当たり前!

8年後 (H32)の福井県の65歳以上
◆ボランティア活動率：80%
◆就業率：30%



元気とは：①健康なさま ②いきいきとして活力のあふれている様。勢いのよい様(国語辞典、旺文社)

はじめに

わが国は平均寿命が約 82 歳の世界最長寿国であり、今や人生 80 年、90 年時代を享受する一方で、未だ世界のどの国も経験したことの無い本格的な人口減少・超高齢社会を迎えます。

最新の人口推計によれば、福井県ではついに人口 80 万人を割り、人口 70 万人の時代が到来したところであり、今後も高齢者を支える現役世代の減少が続くとともに、「団塊の世代」が高齢期を迎え、高齢化は一層進んでいきます。

本県の高齢化率は 25.2%で全国より 3 年程度高齢化が先行していますが、元気な高齢者が多く、平均寿命も長い全国トップクラスの健康長寿県です。高齢者の元気生活率(要介護認定を受けていない高齢者の割合)は、65 歳から 74 歳までの高齢者が 96.6%で全国 2 位、75 歳以上の高齢者が 72.1%で 12 位となっています。

また、高齢者の就業割合は 21.9%で全国 10 位、高齢者のボランティア行動者率は 26.5%で 15 位と、就労や社会貢献の意欲が高い高齢者が多く、三世代家族で暮らしながら子育てに協力するなど、高齢者が地域や家庭で一定の役割と生きがいを持って生活していることが要因と考えられます。

誰でも年をとるに従って身体機能が衰えることは避けられません。介護や支援が必要な状態になる可能性も高まります。本県の高齢化のピークは平成 37 年頃と予測されていますが、その頃には団塊世代が 75 歳を超える時期でもあり、今から団塊世代の高齢化に伴って顕在化する様々な諸課題への対応を始めておく必要があります。

本企画書では、今後、高齢者が増加し現役世代の減少が見込まれる超高齢社会において、本県の健康長寿を守り続けるために、元気な高齢者には、自身が持つ知識や経験を広く社会に還元していただき、新たな担い手となっていただく機会を充実するための施策について提案を行います。

1 福井県の「団塊の世代」をとりまく現状

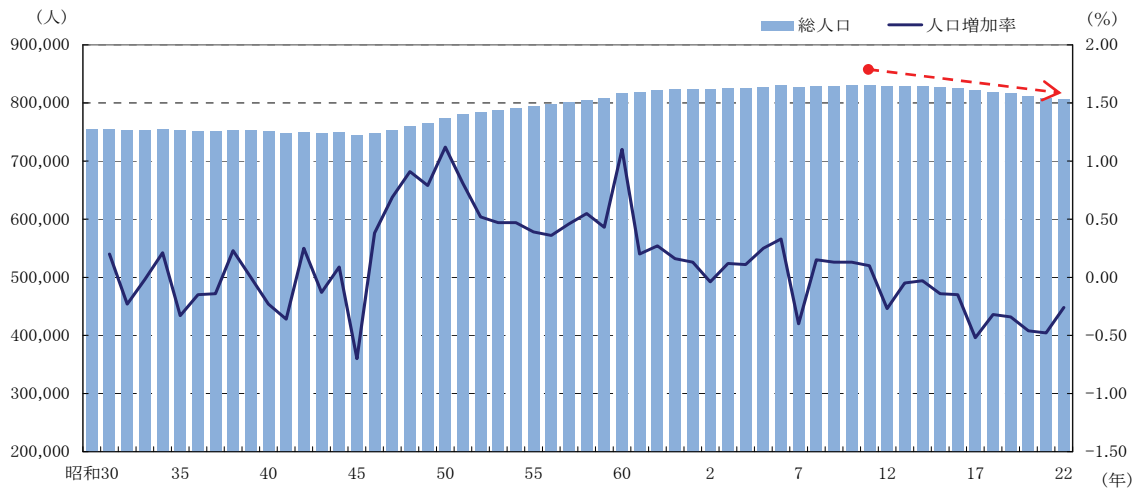
(1)福井県における人口構成

①福井県の人口の推移

福井県の総人口は、803,765人(平成23年9月1日現在)で、平成11年の831,222人をピークに減少に転じており、全国的にも傾向は同じで人口減少は続いています。

(図1-1)

図1-1 福井県人口の推移

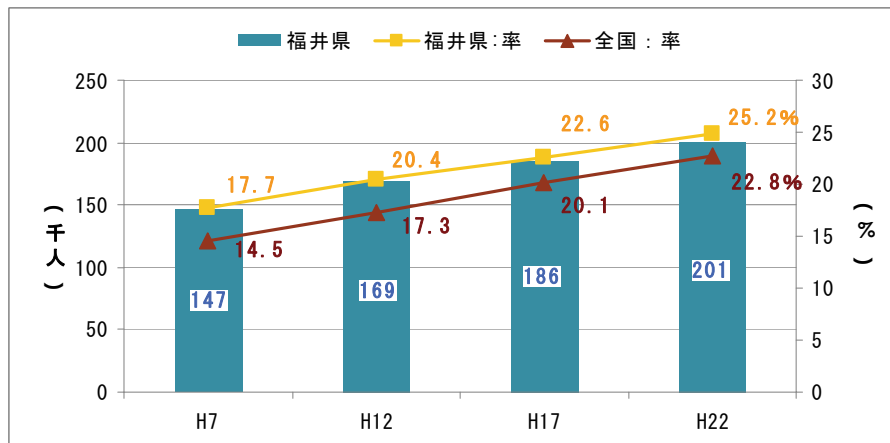


②福井県の高齢化率の推移

本県の人口は平成11年をピークに減少傾向にある一方で、高齢者人口は増加が続いています。

平成22年国勢調査によると、本県の高齢化率(人口に占める65歳以上の高齢者の割合)は25.2%となっており、全国平均より3年程度高齢化が進んでいます。さらに、平成24年度から10年間では、いわゆる「団塊の世代」が全て65歳以上となることから、当面の間はペースが緩むことなく、高齢化が続いていきます。(図1-2)

図1-2 老年人口と全人口に占める割合

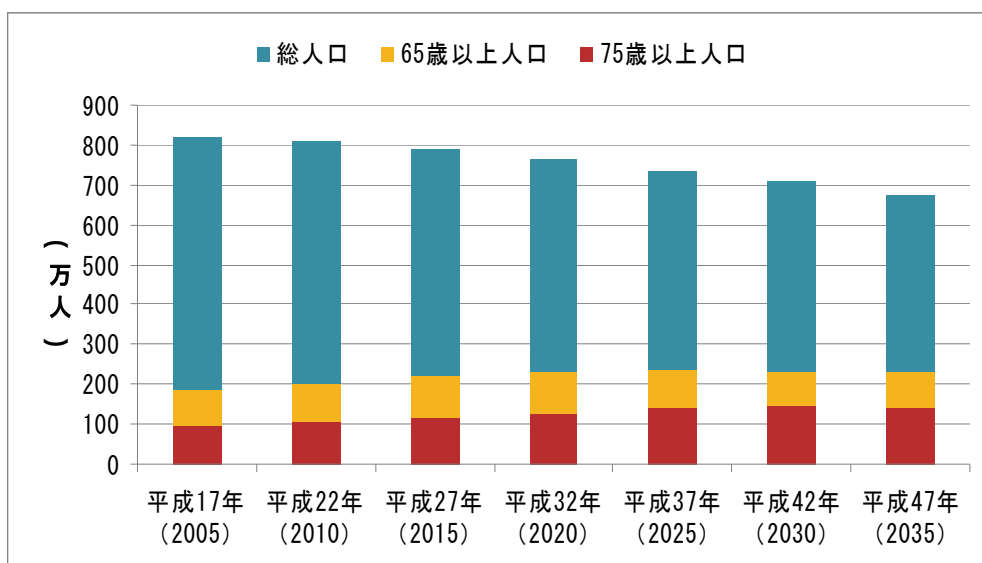


※資料出典：「国勢調査報告」総務省統計局 調査時点 H22.10.1

③福井県の将来人口推計と高齢者推計

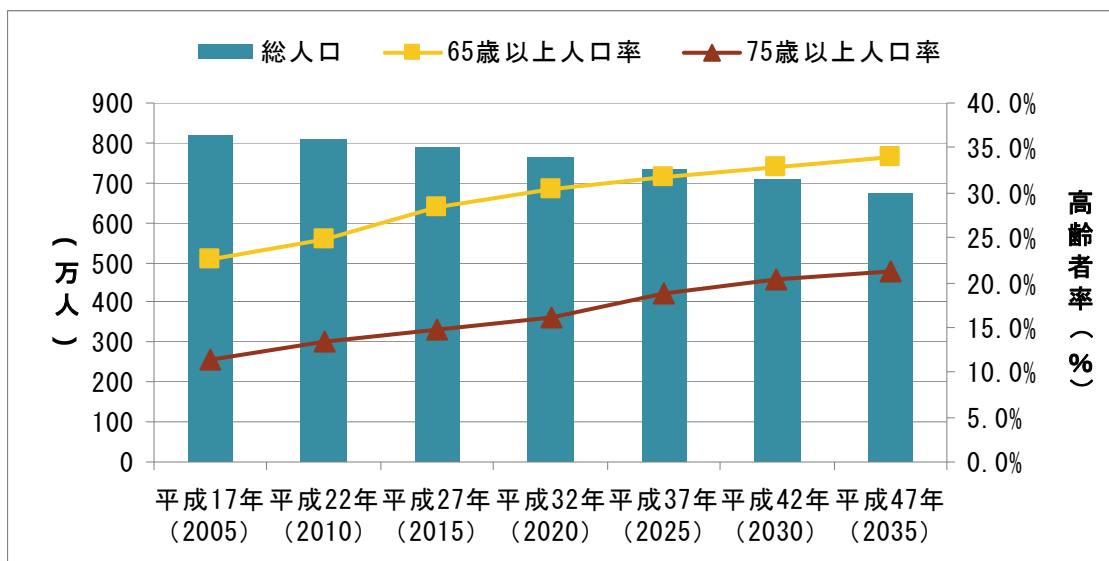
長期的な視点で人口推移を予測すると、高齢者数は平成37年頃にピークを迎える見込みです。後期高齢者人口に限ると、その5年後の42年頃にピークを迎える見込みです。これらの要因は「団塊の世代」にあり、高齢者人口はピークを迎えた後も高止まりし、それほど大きな減少とはならない一方で、現役世代についてはかなりの早いペースで人口減少が続くことから、長期的にも高齢化は一定のペースで進んでいくことが予想されます。(図1-3、4)

図1-3 福井県の将来推計の人口と高齢者数



※国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」

図1-4 福井県の将来推計人口と高齢者率



※国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」

(2)平均寿命と健康寿命の状況

①平均寿命

本県の平均寿命は、平成 17 年では男性が 79.47 歳で全国 4 位、女性が 86.25 歳で 11 位、男女平均では 82.86 歳で 4 位と、全国トップクラスの長寿県となっています。

(図 2 - 1、表 1)

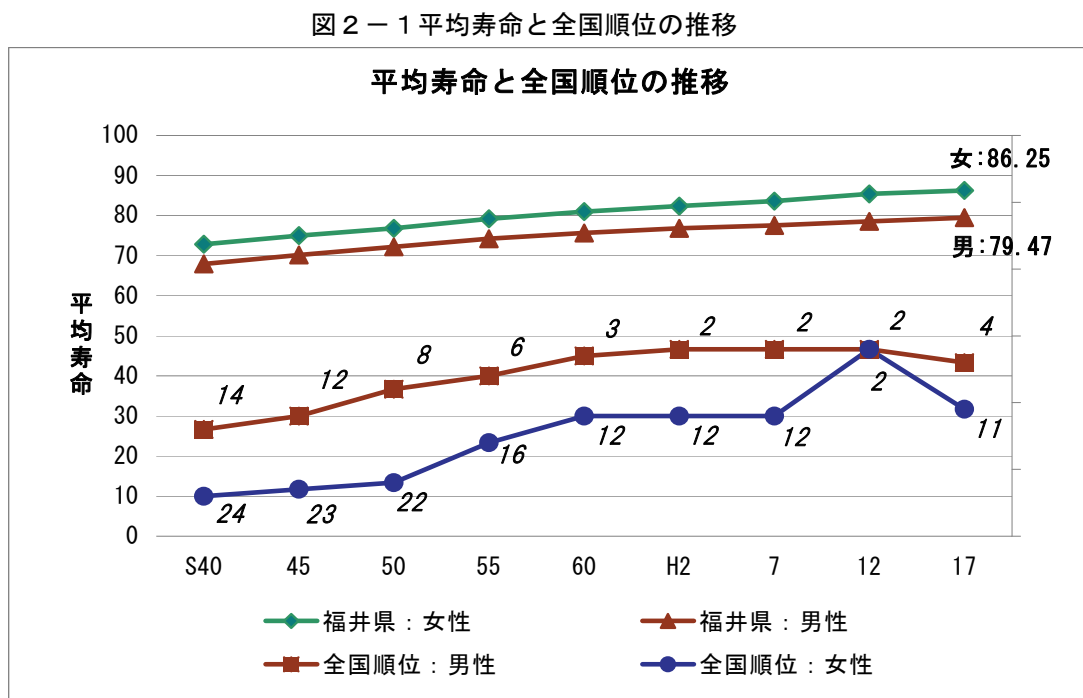


表 1 (単位：歳)

		平成 7 年		平成 12 年		平成 17 年	
		男	女	男	女	男	女
福井県	平均寿命	77.51 (2 位)	83.63 (12 位)	78.55 (2 位)	85.39 (2 位)	<u>79.47</u> (4 位)	<u>86.25</u> (11 位)
全国	平均寿命	76.70	83.22	77.71	84.62	78.79	85.75

※厚生労働省「都道府県別生命表」

②健康寿命

平均寿命から介護等が必要な期間（障害期間）を差し引いた「健康寿命」についても年々延伸しており、介護が必要ないシニアが増加していることがうかがえます。

(表 2)

表 2 福井県の健康寿命 (単位：歳)

	H17	H18	H19	H20	H21	H22
男性	77.8	77.9	77.9	78.0	78.2	78.4
女性	83.0	82.8	82.9	83.0	83.1	83.1

※福井県による独自算出

2 福井県の課題

福井県では人口減少の中、高齢者数、高齢化率は増加し、団塊の世代が75歳を迎える平成37年ころまでその傾向は続き、税収の減少、医療費の増大、年金、介護、労働力の低下など多くの問題に直面し、延いては福井県全体の活力低下が懸念されています。

ここでは、これらの課題の解決指標として、就業やボランティアの状況を検討します。

(1) 就業の状況

本県の高齢者の就業割合は、平成12年から22年にかけて26.4%から21.9%と低下したものの、全国平均の20.4%を上回って全国10位となっています。(表3)

また、シルバー人材センターの会員数は、ほぼ横ばいで推移しています。(表4)

表3 高齢者就業率

	平成12年		平成17年		平成22年	
福井県	44,822人	26.4%(7位)	44,643人	24.1%(7位)	44,086人	21.9%(10位)
全国	4,892千人	22.2%	5,415千人	21.1%	5,952千人	20.4%

※総務省「国勢調査」

表4 シルバー人材センター会員数

	平成13年度	平成16年度	平成19年度	平成22年度
会員数	9,104人	9,522人	9,203人	9,829人

※各年度3月における会員数

(2) ボランティアの状況

本県の高齢者のボランティア行動者率は、平成23年で26.5%と、全国平均の23.5%を上回って全国15位となっていますが、全国的平均の低下に比べ、本県の低下が大きくなっています。(表5)

また、介護や子育てに関するボランティアに取り組むグループが増加しています。(表6)

表5 ボランティア行動者率

	平成13年	平成18年	平成23年
福井県	35.2%(6位)	30.1%(9位)	26.5%(15位)
全国	27.4%	25.7%	23.5%

※総務省「社会生活基本調査」

表6 介護・子育てボランティア状況

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
参加グループ数	34グループ	50グループ	51グループ	51グループ
および参加者数	492人	954人	700人	897人

※県調査

(3)老人クラブの状況

本県の老人クラブの加入率は、全国上位ですが、近年、会員数は減少傾向にあります。

(表7)

表7 老人クラブ加入率(60歳以上の人口に占める会員数)

		平成14年度	平成16年度	平成18年度	平成20年度	平成22年度
福井県	会員数	84,997人	83,196人	79,674人	75,449人	72,000人
	加入率	37.4% (10位)	35.3% (7位)	33.5% (8位)	30.1% (8位)	27.2% (8位)
全国	会員数	8,541,549人	8,273,271人	7,807,716人	7,388,307人	6,711,307人
	加入率	26.9%	24.7%	22.5%	19.9%	17.1%

※厚生労働省「福祉行政報告例」

3 課題解決の方向性

高齢者が、就業やボランティア等に取り組み、「アクティブシニア」として活動を続けられる「元気なふくいを実現」するため、課題解決の方向性を検討します。

このため、高齢者の活動の場の拡大、機会の拡大に向け、シニア層への実態調査(アンケート調査)、企業、開業相談窓口、NPO 団体、ボランティアセンターへ聞き取り調査を行いました。

(1) 高齢者の就労と奉仕活動のニーズに関するアンケート調査

シニア層の、就業・奉仕活動に対する動向・考えを調査し、シニア層の就業・奉仕活動率を向上させる施策の立案につなげるために実施した。

〔場所、日時〕 市内大型ショッピングセンター2カ所、9月4日及び7日

〔方法〕 買物中のシニア(計101名)に対しアンケート調査を実施

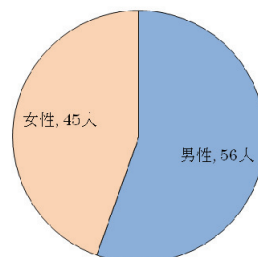
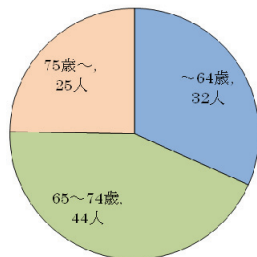
(外見の判断によりアンケートを行ったため、64歳以下も含まれます)

〔結果〕 ①. 対象者の性別と年齢構成 (人)

	64歳以下	65～74歳	75歳以上	計(人)
男性	15	21	20	56
女性	17	23	5	45
計	32	44	25	101

年齢構成

男女構成

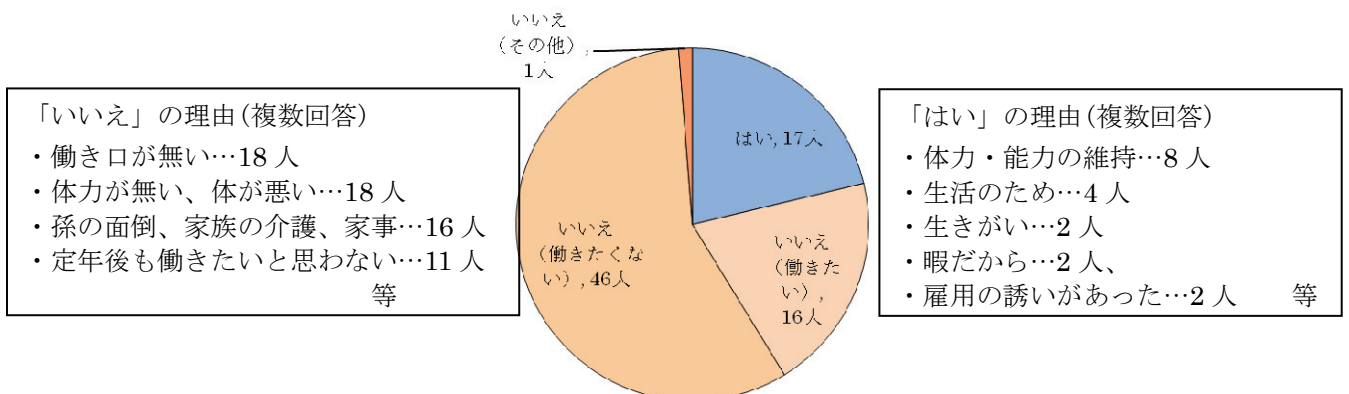


②. 定年退職しているか?

はい	いいえ	合計(人)
80	21	101

③-1. 定年退職後、就労しているか? (定年退職者80人を対象)

していない人は、働きたいか? (カッコ書き)

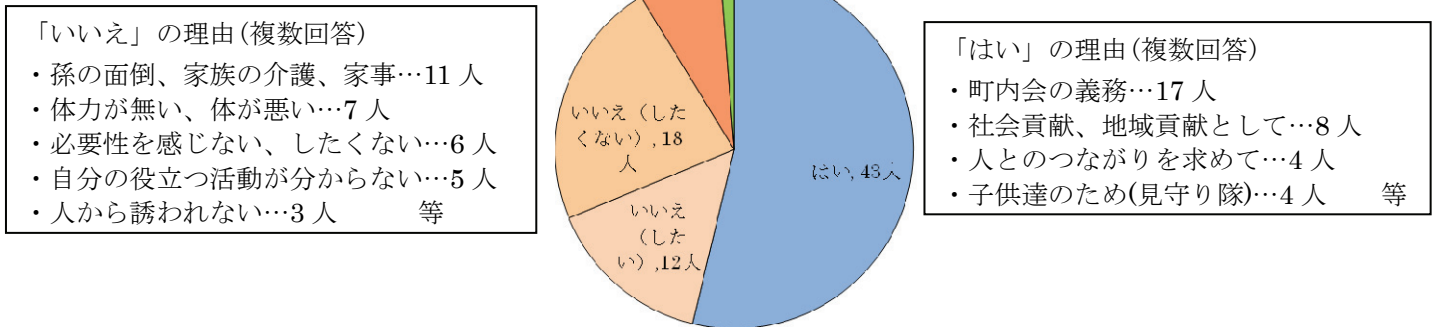


定年退職後に再就職している人が 17 人 (21%)、
 したいと希望する人を合わせ 33 (=17+16) 人 (41%) が、定年退職後
 の就業に対する意欲があった。

③- 2. 定年退職後、奉仕活動をしているか？

していない人は、奉仕活動をしたいか？ (カッコ書き)

(定年退職者 80 人を対象)



奉仕活動をしている人が 43 人 (54%)、
 したいと希望する人を合わせ 55 (=43+12) 人 (69%) が、奉仕活動
 に対する意欲があった。

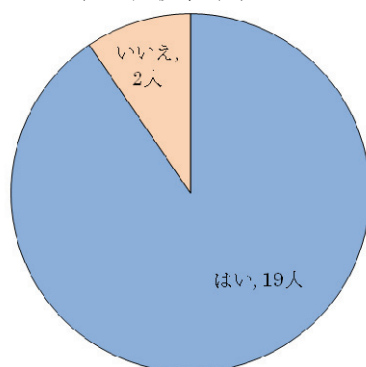
③- 3. 定年退職後、奉仕活動の内容

(奉仕活動をしている定年退職者 43 人を対象)

活動内容	回答数 (複数回答)
町内清掃活動	20
町内会役員	6
見回り隊(防犯)、見守り隊(登下校)	6
公民館活動	4
社会ボランティア	3
町内活動全般	3
スポ少監督	1
近所の頼まれ事	1
買い物ボランティア	1



④-1. 定年退職後、就労したいか？（定年前 21 人を対象）

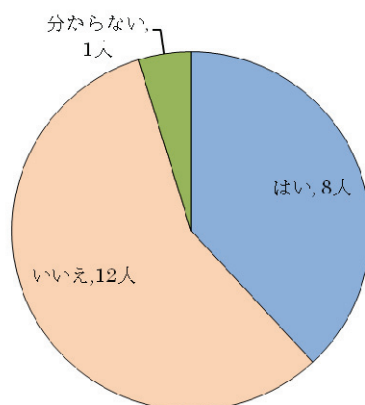


「はい」の理由（複数回答）

- ・生活のため…12人
- ・体力・能力の維持…8人
- ・生きがい…1人
- ・暇だから…1人

④-2. 定年退職後、奉仕活動をしたいか？

（定年前 21 人を対象）



「はい」の理由（複数回答）

- ・社会貢献、地域貢献として…4人
- ・町内会の義務…1人
- ・人とのつながりを求めて…1人
- ・健康のため…1人
- ・世話好きだから…1人

【まとめ】

『就労』について

- ・定年退職者の4割が、「働いている」または「働きたい」と意欲的な回答を行った。
- ・「働いていない」理由として多いのは、「働き口が無い」、「体力面」、「孫守り、介護、家事」だった。
- ・現役の9割が、「定年後も働きたい」と回答した。

『奉仕活動』について

- ・2/3の人が、奉仕活動を「している」又は「したい」と意欲的な回答を行った。
- ・「している」理由として「義務」を挙げる人や、「していない」理由として、「自分の役立つ活動が分からない」、「人から誘われない」という、受け身な理由を挙げる人が少なからずいた。

（2）聞き取り調査

- ① 福井県社会福祉協議会 福祉まちづくり課（ボランティアカフェ）
（電話聞き取り（8/31）（市川））

○高齢者が望むボランティアについて

- ・来客のうち、約半数が高齢者という感じである。多くは退職して、もう仕事はしたくないけど、社会とのかかわりをもっていたいという人たちである。

- ・窓口に来られる方の特徴としては、どんなボランティアをしたいか決まっ
ていないけど何かしたいと言う人がほとんどである。何がしたいか決まっ
ている人は、直接施設や受け入れ側に申し出ているようである。

○高齢者を望むボランティアについて

- ・高齢者ボランティアをターゲットに依頼ということはまずないが、ボラン
ティアカフェの設置主体の特性上、どうしても社会福祉法人等の高齢者や
障害者などの福祉施設からのボランティア募集が多い。
- ・施設利用者へのコミュニケーション相手や夏祭りなどのイベントでのボラ
ンティアの依頼が多く、これは平日の活動が多いため、時間のある高齢者の
ほうがマッチングしやすい。
- ・特殊な技能（楽器演奏、パソコンスキルなど）をもった方については、高
齢者リーダーバンク（同社会福祉協議会すこやか長寿課）に登録する制度
があり、ボランティアカフェと連携し、高齢者の能力を発揮できるようコ
ーディネートしている。

② 福井商工会議所 中小企業総合支援センター金融・税務相談課（開業サポ
ートセンター）
（面接聞き取り(9/3)（市川））

○高齢者起業支援の現状

- ・「高齢者」という年代ごとのターゲットはない。
- ・開業センターとして窓口で相談支援（月 8~10 件程度の起業相談あり、高
齢者少ない）
- ・高齢者が起業する理由として多いのは、企業で培った技術やノウハウを生
かしたい、趣味を生かしたいなどが多い。
- ・（商工会での開業のための相談者ヒアリングのステップより）高齢者（団塊
の世代）の強みは、開業動機がある程度明確であり、経験や知識を持ち合
わせていることが多く、家族や周囲の理解も得られていることが多い。ま
た退職金や貯蓄など自己資金が準備されていることがおおい。弱みとして、
体力面からの事業継続やこれが理由となって融資が受けにくい、返済がで
きないなどのリスクがあること、綿密な利益予測や計画書作成が苦手で
あること。

○期待すること

- ・年齢を問わずになるが、開業率をアップさせることは、地域経済の活性化、
雇用の創出につながる。現在は不況下の中、開業率の伸び悩みと廃業率
の増加が目下の商工会の課題である。
- ・高齢者には、今まで培ったノウハウ、知識、人脈などの強みを生かし、後世
に継続できるような事業を展開してほしい。（福井の技術は、繊維、メガネ）

○起業のための施策

- ・国、県、市からの制度融資あり。行政の支援策はミスマッチが多い（空き店舗活用など）。
- ・支援を目当てに開業しても長続きしない。

③ 製造業（編レース）中小企業 取締役 （面接聞き取り(9/10)（市川））

○高齢者の新規雇用および再雇用について

- ・新規雇用という考えはない。ただし、技術や経験を持っていれば別。
- ・再雇用に関しても、定年は60歳であるが、正社員がいいかパートがいいかは、従業員の希望に応じている。たいがいは、年金がもらえるまでは正社員というパターンが多い。
- ・当社は、高齢になってもずっと働き続けられるよう、身体に負担がかからないような設備投資をしている。

④ 大型ショッピングセンター業務担当グループマネージャー （面接聞き取り(8/31)（池田、市川））

○高齢者の新規雇用および再雇用について

- ・正規・パート社員とも定年を60歳に設定しているが、65歳までは再雇用する環境にある。(60歳以上は、“キャリア社員”と呼称)
- ・正規・パート社員で賃金の差は有る。
- ・新規雇用については、シルバー人材センターへ依頼し派遣を受けている。
- ・60歳以上の人も多く、中には70歳を超える人もいる。人材に応じた業務形態としている。(カートン整理、商品出し等の単純業務)
- ・なお、鮮魚等の技術があれば、雇用年齢は高くなる傾向にあり、現役時の技術が活かされている。また、体力等の個々の事情により、勤務時間や業務等、臨機応変に対応している。
- ・新規雇用は60歳までを希望。但し、バイタリティ等があれば、70歳まで可。

⑤ 大型ショッピングセンター人事担当者 （面接聞き取り(9/6)（池田））

○高齢者の新規雇用および再雇用について

- ・定年は60歳。再雇用は65歳までを目途に、70歳まで。65歳以降については、時短や専門性を問う。いずれにせよ体力次第である。なお、女性は競争意識が高い。
- ・再雇用にあたっては、積極性、元気、体力がある方を臨む。
- ・新規雇用は65歳まで設けているが、雇用意識は薄い。
新規雇用として、ホームセンター部門において、現役時に専門知識をもっていた男性を重宝している実績をもつ。

○高齢者のボランティアについて

- ・企業としての地域貢献活動には、ペットボトルの回収や小中学生を対象とした職場見学を実施している。
- ・高齢者との連携はなく、今後の連携も見出せない。

⑥ NPO団体理事長（NPO福井科学学園）

（面接聞き取り(9/4)（鈴木、前田、市川、池田））

○NPO福井科学学園について

- ・NPOで行っている児童を対象とした「科学実験教室」の講師は、4人中3人が70歳近い高齢者。
- ・他にも、県からの受託事業において、福井市春山公民館で「実験教室」を行っている。講師は7名程度で高齢者であるが、活動機会の拡大は難しい。
- ・但し、他の公民館へ活動を拡大し、高齢者の活動機会を増やすことは可。
- ・「実験教室」は無料で集客し、ジュース等を配布。
- ・他に、春山、松本、春江西の各公民館で、高齢者と児童との交流会をかねて、映写会を開催。
- ・現役世代の参画は、香川氏自身がそうであったように、忙しく難しい。

○実験教室について

- ・教材については、高精なものは求められていなく、むしろ、高齢者が安く手作りする方がニーズにあっている。
高齢者の教材づくりは、“生きがい”となる。
- ・高齢者のみで交流するよりも、子どもを交えた方が、高齢者の交流も進み、集まり易い。
- ・2か月に1回程度の実験教室を行うことは、毎日働いているようなもの。ディスカッション、プランニングが、生きがい、活性化へとなる。

○高齢者のボランティアについて

- ・増やすには、公民館のつながりを活かしたり、動機付けの補助金が必要。現在、活動継続のため、NPO団体で基金やファンドの創設を検討中。

○行政支援について

- ・事業等の方向性や合意形成の支援を行政に望む。
NPOでは認知度が低く、孤立。活動の継続には、後押し、後ろ盾が必要。
(Ex：NPO活動の広報や補助金等)



⑦ 県内金融機関 地域交流担当責任者

(面接聞き取り(9/5) (前田、市川、池田))

○高齢者の新規雇用および再雇用について

- ・定年は60歳。65歳までの再雇用が課題であり、対応している。65歳以降については、今後の課題と考えている。
- ・再雇用により、職員は膨らむ一方、再雇用者の年収は減る。
職員の数や賃金のバランスに配慮している。
- ・以前は70名程度あった新規採用が、少子高齢化に合わせた採用形態を取っているため、現在の新規採用は30名程度。
- ・再雇用は、被雇用者のニーズに応じ、1年更新で65歳まで。家業、健康面、勤務能力等 自発的にリタイアする人もいる。このため、雇用促進にあたり、被雇用者のニーズ(時間、業務内容等)に対応するよう努めている。
- ・再雇用にあたっては、専門知識をもつ方を臨む。
- ・新規雇用は、庁舎管理等で、シルバー人材センターに依頼。但し、少ない。
- ・金融機関はサービス業のため、新規雇用等の拡大は難しい一方、製造業であれば可能と考え、すなわち業種次第と考える。

○高齢者のボランティアについて

- ・金融機関において、
地域貢献活動に、
 - ◎ペットボトル回収を行い、セルフ(授産施設)と提携。
 - ◎(財)地域振興協力基金を活用し、まちおこしイベントに資金提供。を行っており、他にも、
 - ふりこみ詐欺撲滅、○24時間テレビ募金、○年金コンサート(授産施設出展)、
 - 使用済切手の収集→社協→福祉団体、○職員による清掃活動(土曜)、
 - ワンコイン募金(管理職)をおこなっている。
- ・飽くまで地域貢献活動のため、無理することなく、できる範囲で行うスタンス。無理をすると、持続的とならないと考えている。
- ・地域貢献活動について、NPOやボランティア等、地域との連携・共同を検討し、進めるところであり、機会を増やしたい。(CSR推進の地域交流室を創設)高齢者との共同については、認識がなく、今後の検討を進めたい。

【まとめ】

『起業』について

- ・ 起業理由には、今まで培った技術やノウハウ、趣味を活かしたい等が多い。
- ・ 高齢者は、開業動機が明確で、経験や知識を持ち合わせていることが多く、家族や周囲(人脈)の理解も得られている。また、自己資金が準備されていることが利点。
一方、高齢であることからリスクが高く、融資が受けにくい。

『就業』について

- ・ 定年は60歳であり、年金が支給される65歳までは再雇用する環境が多い。企業側は、被雇用者のニーズに合わせた雇用形態(勤務時間、内容等)としている。
- ・ 再雇用にあたっては、体力、元気、積極性等を求めている。
- ・ 新規雇用は、専門の技術や経験を持つ方のニーズはあるものの少ない状況。人手確保には、シルバー人材センターへ依頼し派遣を受ける状況が多い。

『ボランティア』について

- ・ 高齢者のボランティア動機は、社会との関わりを持ちたい、役立ちたい等であり、活動内容は不明なものが多い。
- ・ 一方、高齢者ボランティアを求める理由は、時間的なもので「平日の活動にマッチングする」程度であった。
- ・ このため、企業やNPOに対する高齢者ボランティアへのインセンティブには、活動に対する助成金や周知が必要。

『生きがい』について

- ・ 高齢者を対象にするNPO活動の中には、“生きがい”作り、持続となるものもあり、活動継続への援助が必要。

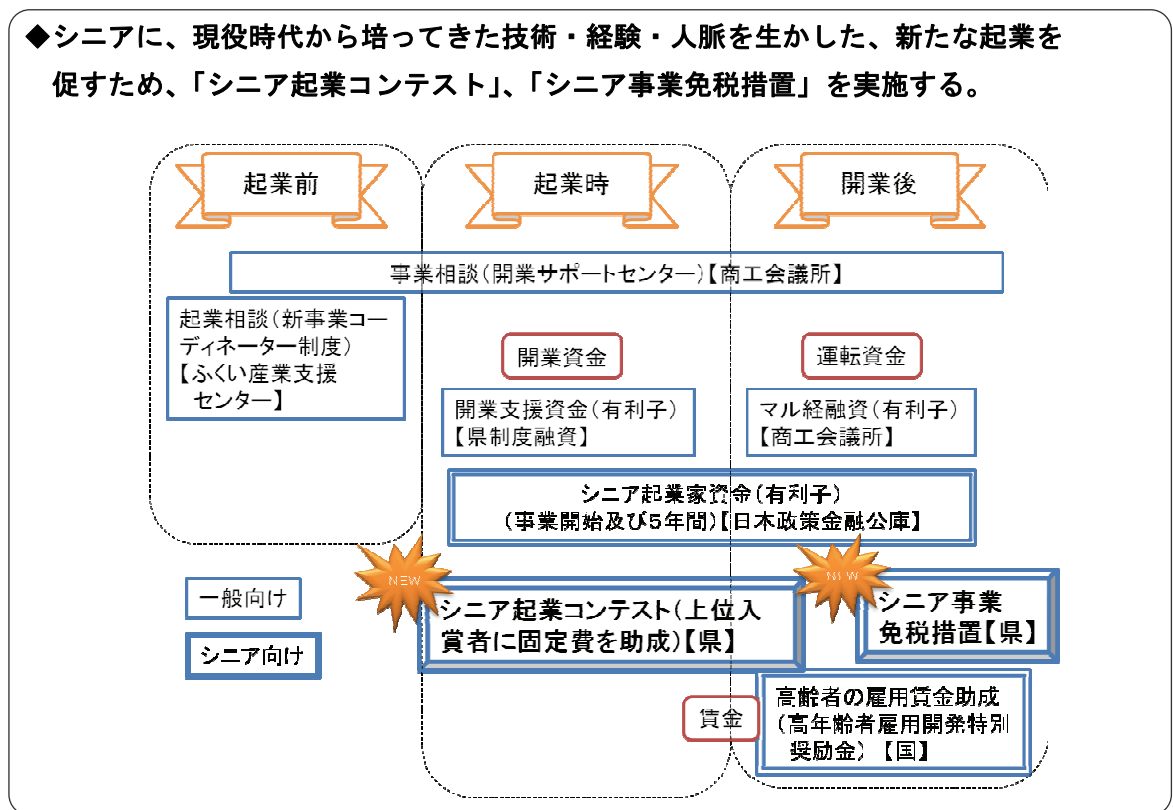
4 施策の提言

私たちは、とくに今後 10 年間の高齢者施策の核となる団塊の世代を中心に、アクティブシニアとして、自身が持つ知識や経験を広く社会に還元していただき、新たな担い手となっていただく機会を充実するための施策について「Ⅰ 就業施策」「Ⅱ ボランティア施策」「Ⅲ 生きがいつくり施策」を三本柱とした提案を行います。

また、これらの施策によって、8 年後の平成 32 年には、65 歳以上の就労率 30%、および 65 歳以上のボランティア活動率 80%を目指します。

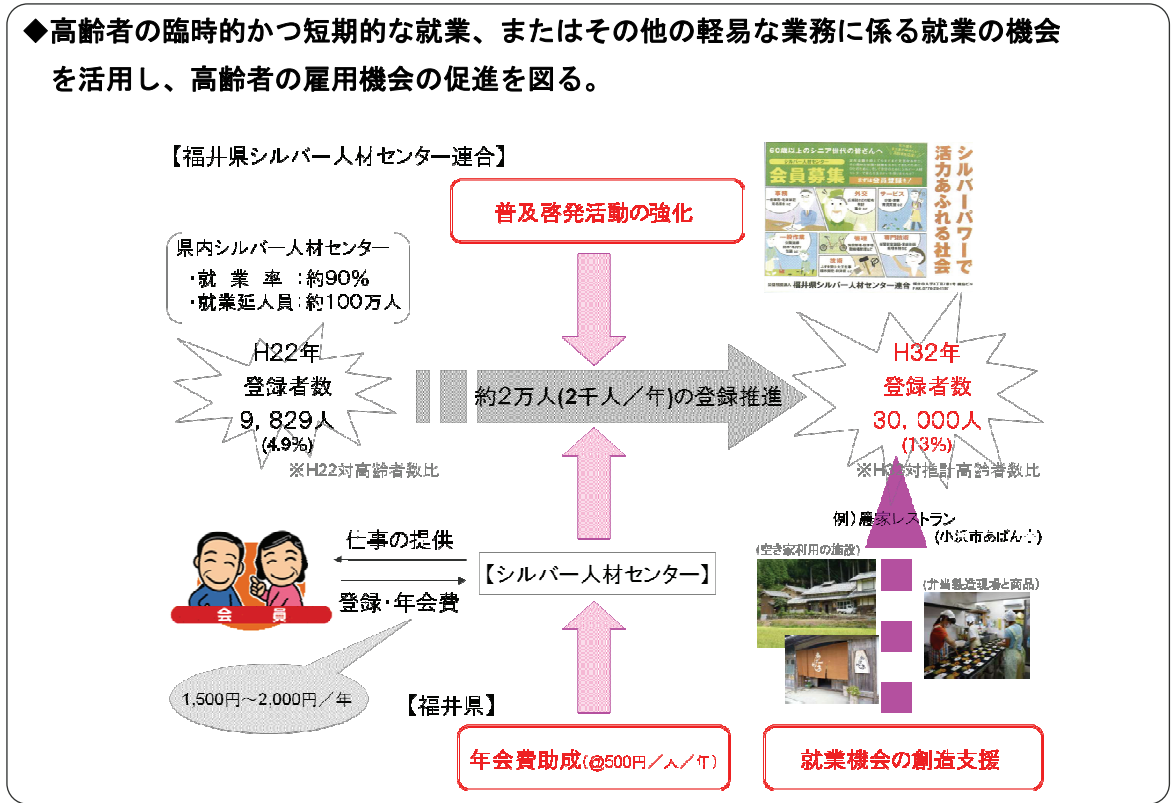
I 就業施策

i シニア起業支援



ii (社)シルバー人材センターへの登録の推進

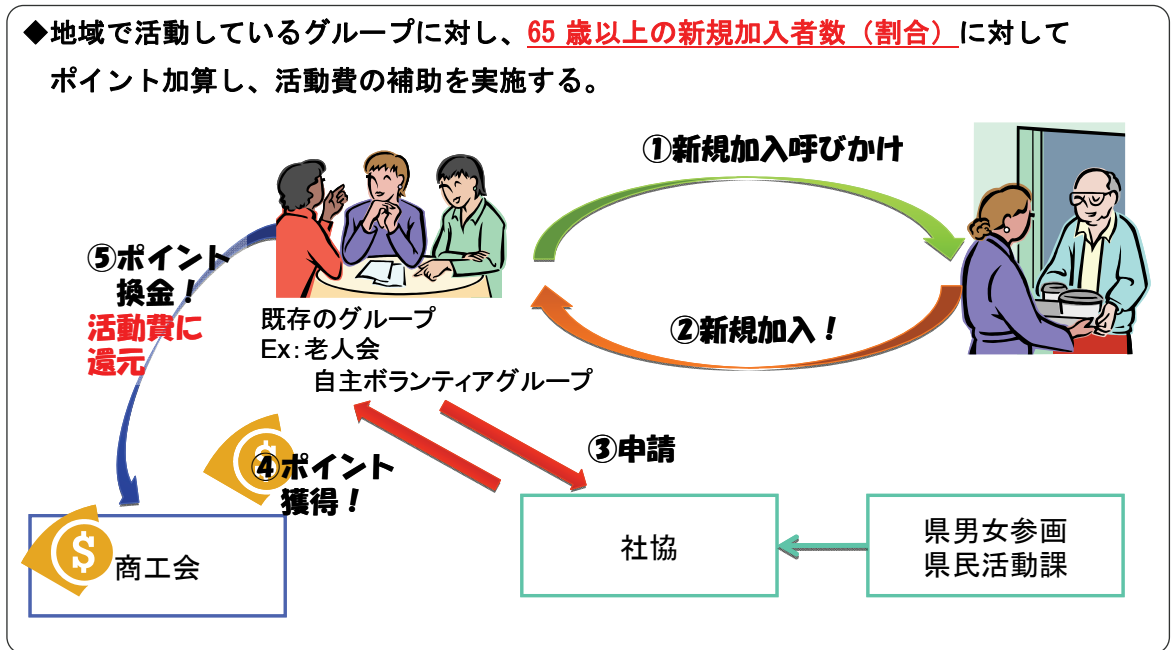
◆高齢者の臨時的かつ短期的な就業、またはその他の軽易な業務に係る就業の機会を活用し、高齢者の雇用機会の促進を図る。



II ボランティア施策

iii “アクティブシニア” ポイントの導入

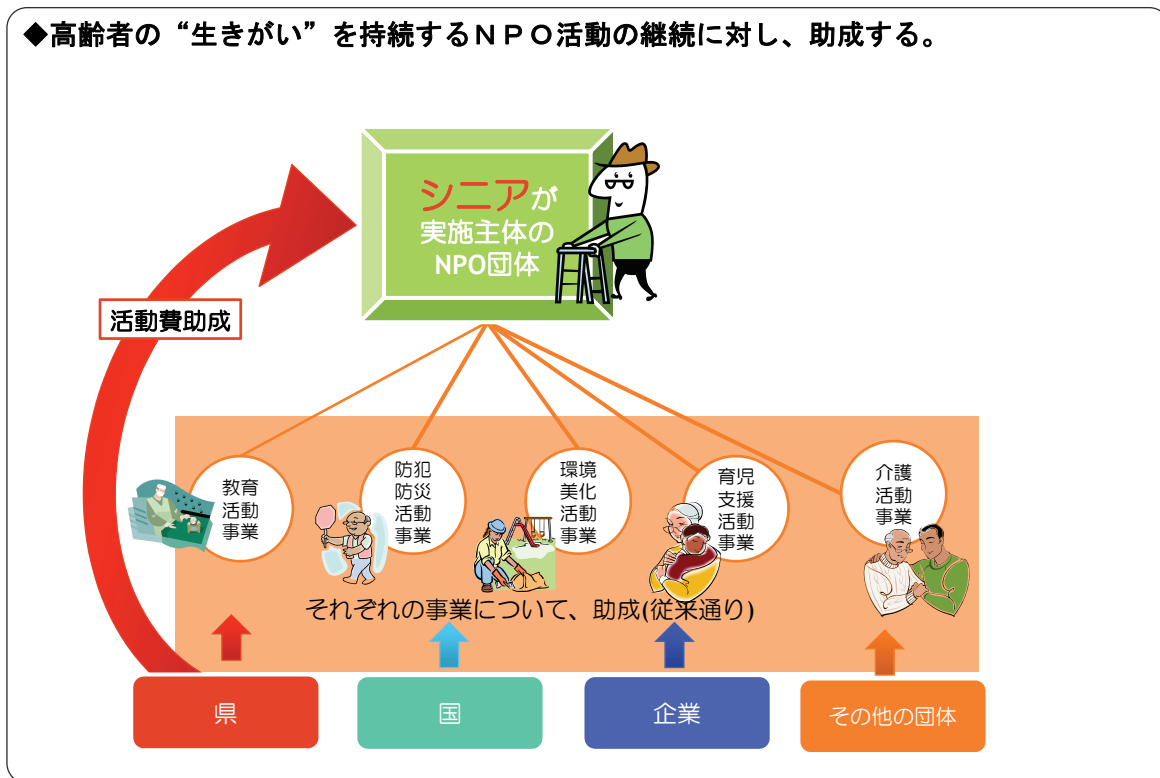
◆地域で活動しているグループに対し、**65歳以上の新規加入者数(割合)**に対してポイント加算し、活動費の補助を実施する。



Ⅲ 生きがいづくり施策

iv 高齢者の“生きがい”活動を行うNPO事業への支援

◆高齢者の“生きがい”を持続するNPO活動の継続に対し、助成する。



Ⅳ 提言する政策全体の進め方

v 広報活動の強化

◆ボランティアや就業などの具体的な内容を紹介し、県民に広く周知を行うために、アクティブシニア代表である知事(67歳)を広告塔として、五木ひろしさん(64歳)をはじめとする県内出身の有名人・著名人とのコラボレーションCMを製作する。



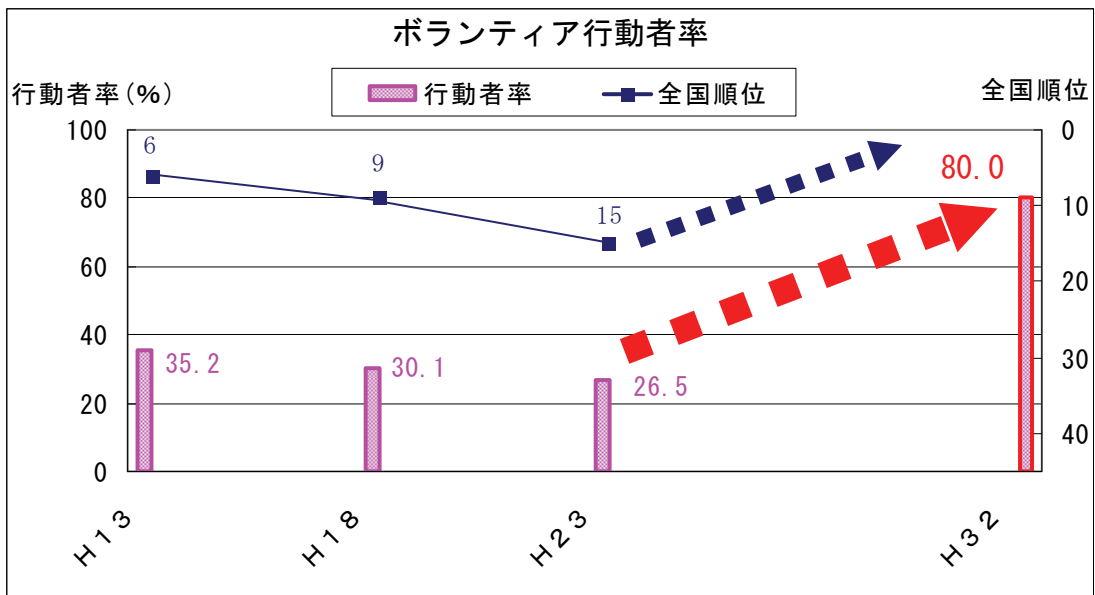
5 提案する政策による目標

団塊世代はアクティブシニアがあたりまえ！

(1) 65歳以上のボランティア行動者率

H23 26.5% → H32 **80%**

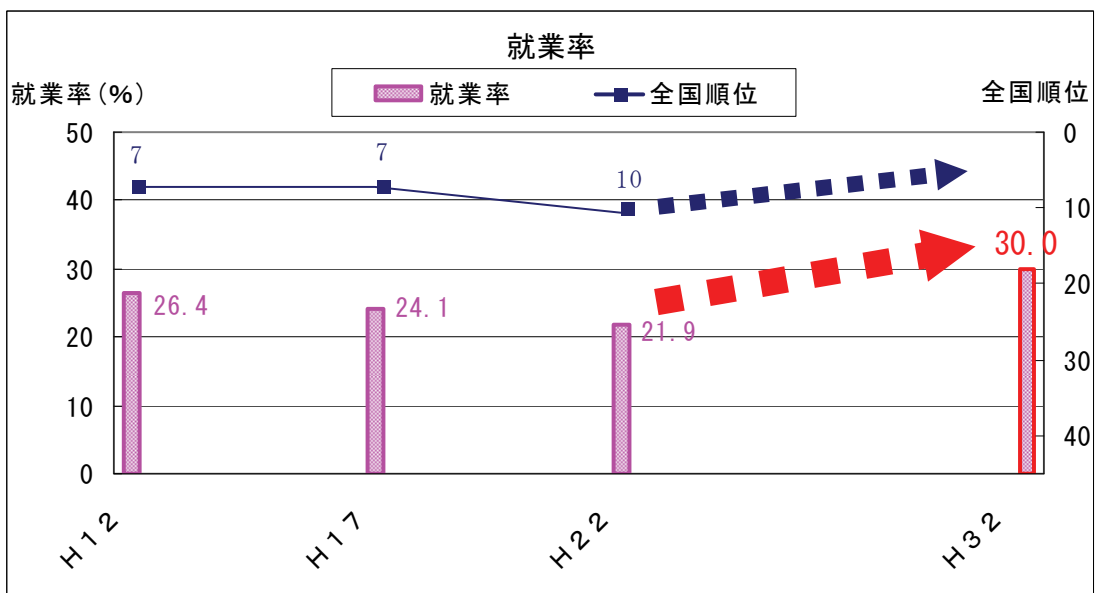
(※参考：福井県(H23)要介護認定率：16.8%)



(2) 65歳以上の就業率

H22 21.9% → H32 **30%**

(※参考：福井県(H12)65歳以上の就業率：26.4%)



おわりに

私たち「チームアクティブ Jr」は、今後高齢者が増加し現役世代の減少が見込まれる超高齢社会を迎えるにあたり、今以上に高齢者に活躍してもらえるような仕組みづくりができないかを考え、検討を行いました。

現役世代が減少するという弱みを、アクティブシニアが活躍できる機会の拡大という強みに変えるという発想の転換を行うことで、高齢者のための介護や現役世代の負担軽減のための子守りなどのボランティアを行ったり、知識・経験・技術力を活かした働く場の確保・拡大を行い、アクティブシニアがなくてはならない存在、いわば、「ふくいを支えているのはアクティブシニアである」となるようにしたいという期待をこめて、政策提言を行いました。

私たち「アクティブ Jr」の世代も、いずれは高齢者になります。私たちが高齢者になるころには、現状よりももっと深刻な状況になっていると思います。今回、この研修を通じて、私たちが高齢者となった時に、アクティブシニアとしてどのように社会に貢献していくべきかを真剣に考えるきっかけとなりました。

最後になりましたが、この研修をご指導いただきました講師の田中先生をはじめ、研修のアドバイザーであります政策推進課の蓑輪総括主任と小島企画主査、アンケート調査および聞き取り調査にご協力いただきました皆様、打合せの場所を快くお貸しいただきました福井健康福祉センターと防災無線室の皆様、ならびにこの研修に携わった全ての皆様に対し、心からお礼申し上げます。

平成24年10月26日

チーム アクティブ Jr.

鈴木 勝之 (公営企業経営課)
前田 和宏 (危機対策・防災課)
池田 輝彦 (環境政策課)
市川 宏枝 (福井健康福祉センター)